

ポートフォリオを考える



ポートフォリオとは

ポートフォリオは「金融商品の組み合わせ」のことを指し、具体的にどの運用資産（株式、債券、投資信託等）をどの程度の割合で保有するか考えることを「ポートフォリオを組む」といいます。ポートフォリオは運用目的や運用期間、自分のリスク許容度等を勘案しながら作成します。



ポートフォリオを考える

point
1

リスク許容度を知る

「リスク許容度」は資産運用により発生する損失をどの程度受入れられるかの度合いです。ポートフォリオを組む際にも必要以上にリスクを取りすぎないよう、まずは自分のリスク許容度を把握することから始めましょう。

point
2

運用目的から考える

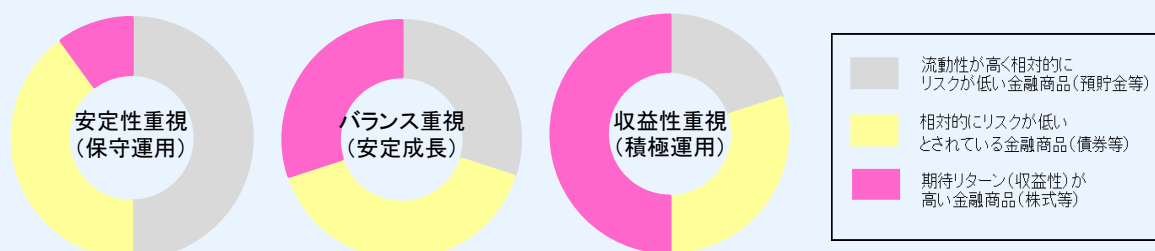
ポートフォリオ運用はリスク低減効果が期待できるほか、組み合わせや配分を変更することで期待する運用成果に近づけることもできます。

point
3

運用期間から考える

ポイント2にも関係しますが、運用期間・投資資金によってリスク許容も変化します。運用目的を見直し、自分の考えに合ったポートフォリオを組むようにしましょう。

● ポートフォリオ運用イメージ(例)

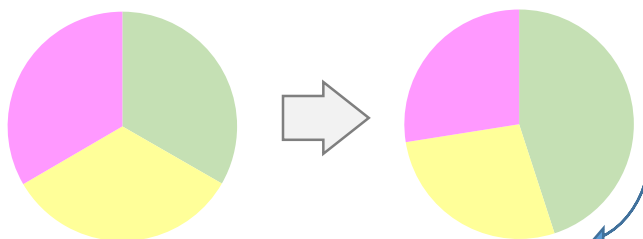


※上記はあくまで一例であり、同アロケーションを推奨するものではありません。



定期的な見直しを

ポートフォリオを定期的にメンテナンスすることを「リバランス」といいます。各金融商品の運用状況に応じて変化したポートフォリオの状態を当初の割合に戻したり、資産状況、相場環境、ライフステージ等に応じて、ポートフォリオ全体のリスク・リターンを見直し、投資割合を調整することも大切です。

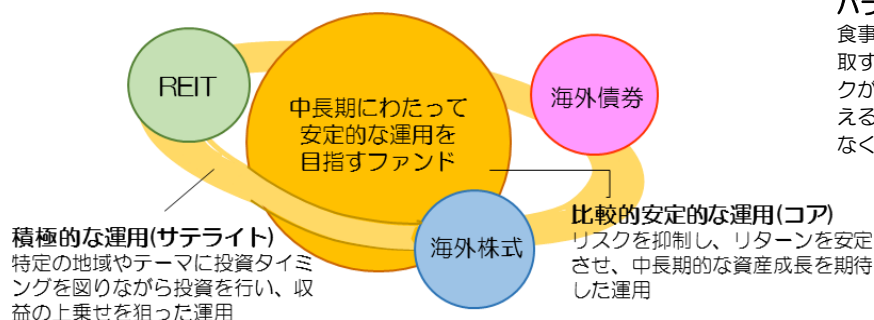


運用状況によっては当初想定したポートフォリオの内容から乖離することもあります。自分のポートフォリオの内容を定期的に確認し、リバランスすることも必要です。

Q コア・サテライト戦略とは

「コア・サテライト戦略」とは、ポートフォリオを組む際に中核(コア)になる部分と、非中核(サテライト)部分に分けて、その両者をバランスよく組み合わせることで運用効率を向上させることを目指す運用手法のことです。

●コア・サテライト戦略イメージ(例)



※ イメージ図は考え方の一例を示したものであり、全てのケースを表すものではありません。

バランスの良い運用・・・？

食事をするときにも、ある食品ばかりを摂取すると栄養が偏り、生活習慣病等のリスクが高まってしまうように、資産運用を考える際にもある特定のリスクに偏るのではなく、リスクを分散させることが大切です。



！ 中長期運用では「負けないこと」が重要

「せっかく投資するんだから、大きく儲かるものに投資しないと意味がない」とお考えの方もいるかもしれませんが、中長期的に運用する場合には「大きく勝つ」ことよりも「負けない」ことの方が重要になってきます。

「大きく勝つ」可能性があるということは、同時に「大きく負ける」可能性もあるということです。一度大きな損失を出すと取り戻すのは容易ではなく、中長期で見た『資産形成』の妨げとなることもあります。

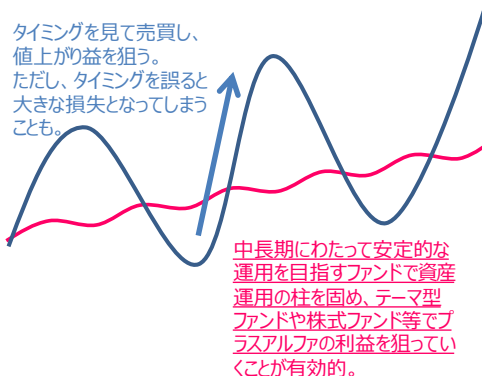
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
Aファンド	5%	-9%	11%	-12%	10%
Bファンド	1%	2%	2%	2%	3%

Aファンドは5年間のうち、3年はプラスの収益を上げており、うち2年は10%以上の収益率だった
Bファンドは毎年プラス収益であるものの、収益率は毎年1～3%程度

両方に100万円ずつ投資した場合、5年後は？

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
Aファンド	105万円	96万円	106万円	93万円	103万円
Bファンド	101万円	103万円	105万円	107万円	110万円

年間の収益率としては、低く見えるBファンドに投資していた方が好成績となっています。
短期間のリターンばかりに注目していると、中長期で見た資産形成の妨げとなることもあります。



● シャープ・レシオ

リスク(標準偏差)1単位あたりの超過リターン(無リスク資産で得られるリターンを上回った超過収益)を測るもので、運用効率を測る指標として利用されています。

数字が高いほど、効率よく収益が得られたことを意味します。投資信託の運用実績の評価などにも使われます。

$$\text{シャープ・レシオ} = \frac{\text{ポートフォリオの収益率} - \text{無リスク資産の収益率}}{\text{ポートフォリオの収益率の標準偏差}}$$

【免責事項】

○本資料は、公表された資料に基づき作成されたものであり、その正確性、完全性を保証するものではありません。
○本資料は、お客様への情報提供を目的としたものであり、投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、本資料をお客様ご自身のためのみに、お客様限りでご利用ください。なお、当社の事前の承諾を得ることなく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。
○本資料に基づき投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、当社は、理由の如何を問わず責任を負いません。

広告審査済